

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	01	01	生涯学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	02	生涯学習推進事業

実施計画整理番号	
101010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>・生涯学習情報の提供、市民カレッジの開催、学社融合事業の推進を行うことにより、市民が様々な学習活動に参加できるようにする ・生涯学習活動を行うすべての市民に成果の発表の場を提供するとともに、新たな学びを求める市民が学習機会に出会える場を創出する。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>・生涯学習推進協議会を通じて市民の意見を取り入れる ・ハロータウンの発行 ・体験活動ボランティア活動支援センター情報誌ハローウィンドウの発行 ・生涯学習フェスティバルの開催</p>
<p>平成29年度の具体的な目標</p> <p>学習活動参加者の増加を図る。</p>	<p>平成29年度スケジュール</p> <p>・生涯学習推進協議会の開催(年2回予定) ・茂原市地域教育力体験活動推進協議会の開催(3月開催予定) ・市民カレッジの開催(全7回開催予定) ・学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ・ハローウィンドウの発行(年2回発行予定) ・ハロータウンの発行(年3回発行予定)</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	456	456	429	456	0	0	456	0	0	456	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	456	456	429	456	0	0	456	0	0	456	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	生涯学習推進協議会の開催	40	40	32	生涯学習の推進に関する事項について審議した。
②	市民カレッジの開催	48	48	48	各種講座を開催し、市民に学習機会の提供を行った。
③	学社融合事業	51	51	50	新治小学校で観劇を実施し、地域の教育力の活性化を図った。
④	体験活動ボランティア活動支援センターの運営	272	272	271	広報紙「ハローウィンドウ」の発行を通して、青少年の奉仕活動・体験活動の充実を図った(年2回)
⑤	地域教育力体験活動推進協議会の開催	32	32	16	生涯学習の推進に関する事項について審議した。
⑥	生涯学習・ボランティア活動の推進	13	13	12	茂原市体験活動ボランティア活動支援センターの活動を支援した。
⑦	ハロータウンの発行	0	0	0	市民へ生涯学習情報の提供を行った(年3回)
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		456	456	429	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・生涯学習推進協議会の開催(9/28、3/8)
- ・茂原市地域教育力体験活動推進協議会の開催(3.26)
- ・市民カレッジの開催(9/4、10/2、11/6、12/4、1/9、2/5、3/19)
- ・学社融合事業の実施(2/3)
- ・ハローウィンドウの発行(7/10、12/7)
- ・ハロータウンの発行(7/1、10/1、1/15)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	101010101
1	01	01	01	生涯学習推進事業	9	05	01	02	生涯学習推進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジについては、9月から3月までの月1回ずつ合計7回実施 広報紙ハローウィンドウの発行部数 12,500部×2回発行 					<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジの講座1回あたりの参加人数が平成28年度より11人減少し28人となった。 				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である		各事業とも、市民の生涯学習活動を推進するために必要な事業であり、妥当である。	A:有効である		講座の開催や各種広報紙の発行などを通じて多角的に生涯学習の推進を行うことができている、有効である。	B:やや効率的である		市民カレッジについては講座内容によっては参加者数が減少する傾向が見られる。	
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している		生涯学習ガイドブック・自主グループ一覧表等を作成し、学習機会を求める市民に対して情報を適切に提供できている。	A:実現している		生涯学習推進協議会・茂原市地域教育力体験活動推進協議会に際し、市民が委員として生涯学習の推進に関する審議をしている。	A:実現している		ハロータウンの編集委員として職員とボランティアが協働して活動し、生涯学習情報の提供に努めている。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		生涯学習に対する協議、情報提供、講座等の事業開催と各方向からの成果を挙げたことで、市民の生涯学習活動の推進を図ることができた。課題としては、講座内容によって参加者のばらつきが生じないよう市民の学習意欲に応える項目を取り入れることによって、より多くの市民に学習の機会を提供できるようにしたい。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		各種の取り組みにより、市民へ様々な生涯学習の機会を提供することができたため、十分な成果を挙げたと認められる。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> 講座の開催回数 広報紙の発行部数 					<ul style="list-style-type: none"> 講座の受講者数 				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
学習活動参加者の増加を図る。					<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進協議会の開催(年2回) 市民カレッジの開催(全7回開催) 学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ハローウィンドウの発行(年2回発行予定) ハロータウンの発行(年3回発行予定) 					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	07	子育て支援事業

実施計画整理番号	
102010201	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>幼児期の子どもを持つ保護者の子育てに関する悩みやストレスを軽減させ、家庭教育を充実させる。</p>	<p>地域における子育て支援センターとして開かれた幼稚園づくりを推進する。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 	<p>公立幼稚園4園が、6月～12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	320	320	320	243	0	0	243	0	0	243	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	320	320	320	243	0	0	243	0	0	243	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ふれあい広場事業	320	320	320	地域のニーズに応え、地域に根ざした子育て支援を実施した。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		320	320	320	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<p>公立幼稚園4園において遊具やおもちゃで遊んだり、各園独自の内容による「わらべ歌」「絵本の読み聞かせ」「人形劇」などを実施した。</p>

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	102010201
1	02	01	02	子育て支援事業	9	04	01	07	子育て支援事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	開催回数 延べ24回(6回/園)				参加した未就園児・保護者 延べ881人 (豊岡255人、五郷190人、新茂原268人、中の島168人)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	子育てふれあい広場や子育て相談などの子育て支援事業は、基本計画にも位置づけられている。	A:有効である	地域の子育て支援に対するニーズに応じている。	A:効率的である	未就園児とその保護者を対象として、効率的な実施に努めている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	広報、各幼稚園で事業実施の周知をしている。	A:実現している	参加した保護者は、気軽に子育て相談をすることができる。	C:実現の余地がない	行政が行う子育て世帯のための事業である。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各公立幼稚園において、未就園児のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供することができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	幼児期の子どもを持つ保護者に対し、交流の場の提供と家庭教育に関する悩みの解消に繋がる取り組みとして一定の成果があったものと認められる。引き続き家庭教育に関する情報提供と子育て支援の充実に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	ふれあい広場の開催回数。				参加した未就園児・保護者の数。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
公立幼稚園3園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。				<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	03	03	01 (小)学校教育支援事業

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	02	02	04 学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・臨時的任用講師の配置。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	0	0	4,309	0	0	4,309	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	0	0	4,309	0	0	4,309	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	心の教室相談員の配置	916	916	908	児童・教職員の相談にのことでストレスが和らぎ、心にゆとりが持てた。今後はカウンセラー配置校以外の全校に配置できることが望ましい。
②	学校支援ボランティアの活用	130	130	127	学校内外を支援することで児童・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続する必要性がある。
③	臨時的任用講師の配置	3,263	33	33	県費により講師が配置できたため、市費による講師の配置はしなかった。講師の配置は、毎年見直しが必要である。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		4,309	1,079	1,068	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員を小学校4校に週1~2回(年224時間)配置。 ・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のパトロール、図書の読み聞かせ等で全14校において活用。 ・県費により講師が配置できたため、市費による講師の配置はしなかった。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030101
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業	9	02	02	04	学校教育支援事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和のため、相談員を4校に1名ずつ配置した。 ・ボランティアの登録人数は増加。 				<ul style="list-style-type: none"> ・4校で年間1,700件以上の相談を受け、児童のストレス緩和を支援した。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	B:やや有効である	心の教室相談員の人数と配置について見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用等により効率的な事業実施に努めた。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の配置やボランティアの活用、また臨時的任用講師の配置により学校における教育環境の整備を図ることができ、児童や教職員の心的・肉体的負担が軽減された。 ・心の教室相談員は、県事業のスクールカウンセラーと合わせてもまだ全校に配置されていないため、配置について見直しの余地がある。 						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校の教育環境整備に一定の成果があったものと認められる。今後も相談員の適正な配置を検討するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和のため、第三者の相談員配置数。 ・授業支援や交通指導支援等のボランティア登録人数と活動人数。 ・児童数の減少により1学年1人の教員配置のない学校について、市費による講師配置を行う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。(相談回数、相談者数) ・解消された複式学級の数。 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・臨時的任用講師の配置。 				<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
1	03	03	01
実施計画事業名			
(中)学校教育支援事業			

予算科目			
款	項	目	事
9	03	02	04
事業名			
学校教育支援事業			

実施計画整理番号	
103030102	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のストレスを緩和する。 ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおく。 学校支援ボランティアの活用と各種競技大会及びコンクールへの参加支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,108	2,108	2,079	2,108	0	0	2,108	0	0	2,108	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	132	132	132	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,976	1,976	1,947	2,108	0	0	2,108	0	0	2,108	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	適応指導教室の運営	1,730	1,730	1,701	不登校児童生徒の学校復帰の支援を図り、3名が高校進学を決め、在校生8名が放課後登校等を図れた。まだ学校復帰していない児童生徒もいるため、継続が必要である。
②	学校支援ボランティアの活用	28	28	28	学校内外を支援することで、生徒・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。活用意義が大きいため、今後も継続が必要である。
③	各種競技大会及びコンクール参加支援	350	350	350	大会等に参加することで、一人一人の個を活かした。継続することで、個の伸長と学習意欲の向上を図る。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,108	2,108	2,079	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- 豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおき、計18名の児童生徒が在籍し、11名が進学先の決定・学校復帰・部分的な登校につながった。
- 登下校パトロール、図書の読み聞かせ、植木の剪定等に学校支援ボランティアを活用した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030102
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業	9	03	02	04	学校教育支援事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の設置数は昨年度と同じ2か所だが、受け入れ人数は減少した。 ・ボランティアの登録人数の増加。 ・大会等への参加を支援した。 				<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスの緩和、悩み等の軽減が図られ、11名が学校復帰等好転がみられた。 ・大会等への参加人数は昨年同様である。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	A:有効である	適応指導教室の入級児童生徒数により、指導員の適正人数、配置に見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用・配置等、効率的な事業実施に努めた。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各学校における教育環境の整備を図ることができ、不登校状態が続いていた児童生徒の適切な学校復帰支援もできた。しかし、児童生徒側のニーズが多様化しており、特別支援の専門知識も必要とされているため、指導員の適正人数の見直しも必要である。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校の教育環境整備について一定の成果があったと認められる。今後も相談員等の適正な配置を検討し、円滑な学校教育を推進するものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の設置数、受け入れ人数。 ・ボランティアによる授業支援や交通指導支援等の登録人数と活動人数。 ・大会等への参加支援。 				<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のストレス緩和と学校復帰。 ・大会等への参加人数。 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおく。 ・学校支援ボランティアの活用と各種競技大会及びコンクールへの参加支援。 				<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	03	03	03
(小)国際教育推進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	02	02	06
国際教育推進事業			

実施計画整理番号	
103030301	
総合戦略整理番号	22303

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	児童が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。	ELTの派遣。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	全小学校の全児童が等しくELTと触れ合える機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ELTの民間委託により、3名を全小学校に派遣する。 ・業務委託によりELTを活用した、教員の指導力向上のための研修を実施する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	0	0	17,440	0	0	17,600	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	0	0	17,440	0	0	17,600	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ELTの派遣	12,960	12,923	11,418	3名のELTを全小学校に派遣し、外国語活動の充実を図った。5・6年生の外国語活動は教科にかわり、3・4年生で外国語活動が始まるため、より一層の充実が望まれる。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		12,960	12,923	11,418	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

3名のELTを全小学校に派遣した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

整理番号
103030301

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	ELTを年間37回派遣した。		ELTを年間37回派遣し、5・6年生だけでなく他の学年も活用した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。	A:有効である	ELTが直接授業を行うことは、コミュニケーションと国際理解の機会を与える有効な手段であるため。	A:効率的である	民間委託をしてコスト削減を図った。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	その他	行政のみでしか実現できない事業。	その他	行政のみでしか実現できない事業。	その他	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、体験的に言語や文化について理解を深める指導をすることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続きELTの活用を推進し、できるだけ多くの児童に対して外国語に触れる機会を提供できるように検討する。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	学校の授業計画及び要望にそって、ELTを派遣する。(回数)		全小学校の児童が、等しくELTと触れ合う機会の提供。(授業時間数・受講人数)	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・ELTの民間委託により、3名を全小学校に派遣する。 ・業務委託によりELTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。 		全小学校の全児童が等しくELTと触れ合える機会を提供する。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
1	03	03	03
実施計画事業名			
(中)国際教育推進事業			

予算科目			
款	項	目	事
9	03	02	06
事業名			
国際教育推進事業			

実施計画整理番号	
103030302	
総合戦略整理番号	22303

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生徒が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。 生徒に外国の文化、風土、習慣等を自らの肌で感じさせ、国際的視野を広めさせるとともに語学力の向上を図る。	ELTの派遣。 中学生を海外に派遣し、ホームステイによる異文化交流を図る。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒がホームステイや語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ELTを民間に委託し、4名を全中学校に派遣する。 ・海外研修(オーストラリア)に28名の中学生を派遣する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	0	0	21,140	0	0	21,300	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	0	0	21,140	0	0	21,300	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ELTの派遣	17,280	17,280	15,224	4名のELTを全中学校に派遣し、外国語学習の充実を図った。音声や基本的な表現力を身に付けるためには、継続して活用する必要がある。
②	中学生の海外派遣	3,700	3,700	3,600	27名の中学生をオーストラリアに派遣し、現地で生活することで異文化と日本の良さを学んだ。多くの生徒に体験してもらったために、継続する必要がある。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		20,980	20,980	18,824	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> ・4名のELTを全中学校に派遣した。 ・海外研修(オーストラリア)に27名の生徒を派遣した。 	

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030302
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業	9	03	02	06	国際教育推進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・4名のELTを年間最大110回派遣した。 ・全中学校の中学2・3年生を対象に海外派遣研修を実施した。(年1回、10日間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・4名のELTを年間最大110回派遣した。 ・27名の中学生を海外に派遣し、語学研修を行ない、異文化に触れることができた。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。	A:有効である	ELTによる授業や海外派遣は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。	A:効率的である	民間委託により、コストの削減を図った。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	その他	行政のみでしか実現できない事業。	その他	行政のみでしか実現できない事業。	その他	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、日本と外国の言語や文化について理解を深めることができた。また、海外派遣により、国際的な視野を広めることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続きELTの活用を推進し、できるだけ多くの生徒に対して外国語に触れる機会を提供できるように検討する。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業計画及び要望にそってELTを派遣する。(回数) ・中学校2・3年生を対象に海外派遣を実施する。(派遣日数) 		<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会の提供。(授業時間数) ・海外派遣や語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付ける。(派遣人数) 	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・ELTを民間に委託し、4名を全中学校に派遣する。 ・海外派遣(オーストラリア)に27名の中学生を派遣する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒がホームステイや語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。 		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030601	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。
平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	0	0	2,805	0	0	2,805	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	0	0	2,805	0	0	2,805	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	2,790	2,790	2,692	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②	副読本「わたしたちの茂原」の活用	394	1,050	940	総合的な学習を行う中で3・4年生が郷土茂原を知るもつとも有効な資料であり、今後も活用していく。
③	「茂原学」検討委員会の設置	0	0	0	茂原学は出前授業と学校独自の学習を併用して実施している。今後は学習を継続しながら、検討委員会設置に向けて課題の集積に努める。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,184	3,840	3,632	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、児童の「生きる力」を育む教育を推進した。
- ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

整理番号
103030601

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全小学校全児童が受講した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当。	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、児童の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	体験学習を中心とした多様な学習形態により、児童が自ら学び自ら考える力の育成に一定の成果が挙げられたと認められる。引き続き「生きる力」の育成に向けた取り組みを進めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全小学校全児童の受講。	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030602	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生徒個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	0	0	1,401	0	0	1,401	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	0	0	1,401	0	0	1,401	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	1,401	1,401	1,299	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,401	1,401	1,299	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、生徒の「生きる力」を育む教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習推進事業

整理番号
103030602

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全中学校全生徒が受講した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当。	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、生徒の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	体験学習を中心とした多様な学習形態により、生徒が自ら学び自ら考える力の育成に一定の成果が挙げられたと認められる。引き続き「生きる力」の育成に向けた取り組みを進めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全中学校全生徒の受講。	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	09	子どもの読書活動推進事業

実施計画整理番号	
103030603	
総合戦略整理番号	22303

事務事業の概要		
PLAN (計画)	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 学校図書館の整備・充実を図り、児童・生徒の読書活動を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ・専任の非常勤学校司書を配置する。 ・学校図書館の蔵書のデータベース化を図る。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	・モデル校4小学校(東郷、茂原、萩原、東部)に引き続き学校司書を配置し、学校図書館の適切な管理運営と環境整備の向上を図る。また、児童の読書活動や学習活動の支援を行うとともに、支援内容のデータベース化を行う。 ・モデル校以外の学校について、学校司書の配置や新学校図書館管理システムの導入に向け、図書の請求記号ラベルを統一仕様書に基づき貼り替え、NDC順・図書記号順に図書の配架修正を行う。	・モデル校では、定期的な巡回指導のほか、学校司書の資質向上を図るため、情報交換会や視察研修会を実施する。 ・既にフリーソフト等でデータベース化されている4小学校・1中学校について、請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を行い、学校司書を配置できる環境を整える。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	0	0	2,798	0	0	2,798	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	0	0	2,798	0	0	2,798	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	学校司書の配置	2,400	2,446	2,431	3名の学校司書を4小学校に配置し、学校図書館の環境整備を図り、また読書活動や学習活動の支援を行った。モデル校以外への配置校の拡充が望まれる。
②	学校図書館管理システム機器の維持管理	398	398	397	通常の蔵書管理機能だけでなく、豊富な検索機能を有するシステムであるため、図書の有効活用が図れるようになった。同システム導入校の拡充が望まれる。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,798	2,844	2,828	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・3名の非常勤学校司書を4小学校に配置(1名2校兼務)した。 ・学校司書情報交換会を毎月(8月を除く。)、視察研修会と勉強会を各1回開催した。 ・4小学校(豊田、鶴枝、新治、緑ヶ丘)と1中学校(西陵)の請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施した。

DO
(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	09	子どもの読書活動推進事業

整理番号
103030603

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ・非常勤の学校司書3名を4小学校に配置した(1名が2校兼務)。 ・既存のデータベース化済み4小学校・1中学校の請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施した。	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・学校司書により学校図書館の環境整備が図られただけでなく、読書指導や授業支援により、児童と教職員の学校図書館を利用する機会が増えた。 ・モデル校以外にも学校司書を配置できる小学校が4校になった。	
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 活字離れによる学力の低下が指摘されている中、読書活動の推進が必要であるため。	A:有効である 学習指導要領でも学校図書館の計画的な利用が位置付けられているため。	A:効率的である 業者委託による学校司書の配置やデータベース化よりも安価であるため。
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
C:実現の余地がない 行政のみでしか実現できない事業	C:実現の余地がない 行政のみでしか実現できない事業	C:実現の余地がない 行政のみでしか実現できない事業
所管による評価とその理由、課題・問題点		
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校司書の配置により、児童・教職員が学校図書館や資料を利活用する機会が増えた。また、蔵書のデータベース化により、学校図書館の適正な管理・運営が可能となった。 <課題>学校司書未配置校及び新学校図書館管理システム未導入校(既存のデータベース化校も含む。)の解消	
企画政策課での評価とその理由		
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校図書館の整備充実が図られたことにより、児童の読書活動が推進されたものと認められる。引き続き、整備された読書環境の有効活用に努めるものとする。	
政策調整会議での評価とその理由		
庁議における方針		

30年度活動指標(アウトプット)の設定 ・学校司書の配置校数。 ・蔵書の請求記号ラベルの貼り替えと配架修正の実施校数。	30年度成果指標(アウトカム)の設定 ・学校図書館で授業を行った延べ学級数。 ・学校司書が行った各種読書指導と授業支援実施数。 ・学校司書を配置するための環境が整った学校数。
30年度における具体的な目標 ・学校司書の配置校を増やし、教職員の読書指導や授業の支援を行う。 ・請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施し、学校司書を配置できる環境整備を行う。	30年度における事務事業スケジュール ・学校司書1名を兼務で2小学校に配置する。 ・蔵書数の多い小学校から順次、請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施する。 ・25年来使用してきた学校図書館管理システムの故障により、システムを更新し、新たに蔵書のデータベース化を行う。(6月補正対応)

CHECK(評価)

ACT(改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	0	0	20,506	0	0	20,506	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	0	0	20,506	0	0	20,506	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	特別支援教育支援員の配置	20,506	20,497	20,446	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
	②		0	0	0	
	③		0	0	0	
	④		0	0	0	
	⑤		0	0	0	
	⑥		0	0	0	
	⑦		0	0	0	
	⑧		0	0	0	
	⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0		
事業費計			20,506	20,497	20,446	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する児童のいる学校に支援員(17名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103040101
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業	9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正に配置した。(17名)				検討した結果、現状維持。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な児童に対し、適切な対応を行うことができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	要支援児童に対する学習補助という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。今後も適正な支援員の配置を検討していくものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	支援員の適正配置。(配置数)				配置時間の見直し。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。				当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040102	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	0	0	4,749	0	0	4,749	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	0	0	4,749	0	0	4,749	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	特別支援教育支援員の配置	4,749	4,749	2,406	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		4,749	4,749	2,406	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する児童のいる学校に支援員(2名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103040102
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業	9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正に配置した。(2名)				検討した結果、現状維持。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な生徒に対し、適切な対応を行うことができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	要支援生徒に対する学習補助という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。今後も適正な支援員の配置を検討していくものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	支援員の適正配置。(配置数)				配置時間の見直し。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。				当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040103	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、幼稚園において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	当該園児が等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	0	0	5,275	0	0	5,275	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	0	0	5,275	0	0	5,275	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	特別支援教育支援員の配置	5,275	5,714	5,682	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		5,275	5,714	5,682	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する園児のいる幼稚園に支援員(3名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103040103
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業	9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正に配置した。(3名)				検討した結果、現状維持。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な園児に対し、適切な対応を行うことができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援を要する園児に対する学習補助という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。今後も適正な支援員の配置を検討していくものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	支援員の適正配置。(配置数)				配置時間の見直し。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。				当該園児が等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
平成29年度の具体的な目標 ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。	平成29年度スケジュール ・全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催した。 ・教育研究指定校への支援。(五郷小・豊田小) ・校内研究会・研究協議会への支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	0	0	1,076	0	0	1,076	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	0	0	1,076	0	0	1,076	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	852	852	852	校内研究会・研究協議会の充実のため、支援を図った。教員の資質向上のためには継続が必要である。
②	研究指定校の支援	200	200	169	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
③	全国学力状況調査の結果分析	24	24	23	学力状況調査の結果をもとに、問題と解答を分析し、児童の学力向上を図った。継続が必要である。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,076	1,076	1,044	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・各学校で校内研修会を実施した。
- ・研究指定校の公開研究会への参加を促進した。
- ・学力状況調査の結果分析会議を年3回開催した。

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	08	職員研修支援事業

整理番号
103050101

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会・研究協議会へ適正な金額の補助金を支給した。 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 全国学力状況調査の結果分析を年3回行った。 		<ul style="list-style-type: none"> 適正な回数の校内研修、授業研究、合同研修会等を行い、多数参加した。 学力状況調査の結果分析を行い、授業へ反映させることができた。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり、妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な経費である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により資質の向上を図ることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、教職員の資質・力量の向上という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き取り組みの充実を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。(補助額) 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。(学校数) 全国学力状況調査の結果分析。(調査・分析回数) 		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究、合同研修会等の開催数、参加者数。 学力状況調査の結果分析を授業へ反映。(分析対象児童の追跡調査) 	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> 全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催する。 教育研究指定校への支援。(五郷小・東部小) 校内研究会・研究協議会への支援。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050102	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校への支援。(本納中・富士見中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	765	765	765	765	0	0	765	0	0	765	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	765	765	765	765	0	0	765	0	0	765	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	553	553	553	校内研究会・研究協議会の充実のため、支援を図った。教員の資質向上のためには継続が必要である。
②	進路指導の支援	112	112	112	充実した進路指導の実施のための支援を図った。毎年行われるため、継続が必要である。
③	研究指定校の支援	100	100	100	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		765	765	765	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で校内研修会を実施した。 ・進路指導充実のための補助金を支給した。 ・研究指定校の公開研究会への参加を促進した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	08	職員研修支援事業

整理番号
103050102

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会へ適正な金額の補助金を支給した。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 ・進路指導の支援をした。 		<ul style="list-style-type: none"> ・適正な回数の校内研修、授業研究、合同研修会等を行い、多数参加した。 ・進路指導の充実を図るための支援をした。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり、妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な経費である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により資質の向上を図ることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、教職員の資質・力量の向上という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き取り組みの充実を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。(補助額) ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。(学校数) ・進路指導充実のための支援。(補助額) 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等の開催数、参加者数。 	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究指定校への支援。(本納中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	共同調理場建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

実施計画整理番号	
103060101	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市内小中学校を対象とした安全安心な学校給食を、学校衛生管理基準に適合した施設から提供するため、新センターを建設する。	既存の共同調理場及び4つの単独調理場を統廃合し、新センターへの集約を図り、学校給食衛生管理基準及びHACCPに基づいた施設を建設する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー支援業務委託を締結 ・建設用地の土壤汚染調査を実施 ・建設用地の適切な維持管理 ・事業者を選定し、本契約を締結 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー支援業務委託を締結する。 ・建設用地の土壤汚染調査を引き続き実施する。 ・建設用地の草刈りを年2回実施する。 ・事業者選定に向け、実施方針等の公表、特定事業の選定、入札公告を実施し、落札者決定後、基本協定の締結、仮契約の締結、本契約を締結する。 	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	0	0	478,615	0	0	129,118	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	123,647	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	303,500	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0
	一般財源	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	0	0	51,468	0	0	79,118	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	アドバイザー支援業務委託を締結する	17,235	18,662	18,294	各種業務委託を実施。今後も学校給食衛生管理基準に適合する施設の早期建設を目指し事業促進に努める。
②	給食センターの設計・建設・運営	0	0	0	
③	既存施設の取り壊し	0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		17,235	18,662	18,294	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> ・PFI手法を用いて整備するため、本契約の締結までの様々な業務支援を行うアドバイザー支援業務委託を締結 ・茂原市学校給食センター再整備等事業PFI専門委員会を設置し、事業者の選定まで全3回に亘る委員会を実施 ・茂原市学校給食センター再整備等事業に係る、入札公告及び事業者の選定・決定、基本協定・仮契約・本契約を締結 ・建設地の土壤汚染調査及び草刈りを実施 	

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103060101
1	03	06	01	共同調理場建設事業	9	06	05	01	共同調理場建設事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況					
給食提供数 6239(既存調理場より提供)					環境衛生基準対応率 50					
妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
A:妥当である	食育の推進を図るとともに、栄養バランスのとれた安全・安心でおいしい学校給食を提供し、子ども達の健全な育成を図る事業である。		A:有効である	茂原市学校給食基本計画に基づきPFI手法を用いて整備することとなったため、学校給食衛生管理基準に適合する施設を早期に建設し、将来にわたり児童生徒に、安全・安心でおいしい学校給食を提供することが確実である。		A:効率的である	茂原市学校給食基本計画に基づきPFI手法を用いて整備することとなったため、従来方式に比べて市の財政負担額が削減することが見込まれる。			
「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
A:実現している	ホームページでの公表 住民説明会		A:実現している	地元自治会や関係者と協議を行っている		A:実現している	地元自治会や関係者と協議を行っている			
CHECK(評価)	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	茂原市学校給食基本計画に基づき、茂原市学校給食センター再整備等事業をPFI手法にて実施。事業の本契約締結までの様々な業務支援を目的としたアドバイザー支援業務委託を締結し、入札公告及び事業者の選定・決定、本契約の締結までをすることが出来た。平成30年度は基本設計、実施設計を行い、平成31年9月の供用開始に向け建設工事の着手に努める。しかしながら、当面の間、学校給食衛生管理基準に適合しない老朽化した既存施設から学校給食が提供されるため、引き続き、施設の早期建設を目指した事業促進に努める必要がある。								
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	給食センターの建設に向け、PFI事業者との契約業務に関するアドバイザー支援業務委託を締結し、PFI事業者の選定、本契約の締結を行うなど、目標が達成できたものと認められる。引き続き平成31年9月の供用開始に向けて事業を進めるものとする。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT(改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	給食提供数 6239					環境衛生基準対応率 50				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング支援業務委託を締結 ・建設用地の適切な維持管理 ・基本設計、実施設計を実施 ・建設工事の着手 ・施設整備協議会、運営協議会の開催 ・関係部署との協議 					<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の監理・指導を目的としたモニタリング支援業務委託を締結する。 ・建設用地の草刈りを年2回実施する。 ・事業者と市において、施設整備協議会・運営協議会を開催し、円滑な事業の遂行に努める。 ・基本設計・実施設計を実施する。 ・建設工事の着手 					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	公民館学級運営費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	02	01	中央公民館学級運営費
			04	本納公民館学級運営費
			07	鶴枝公民館学級運営費

実施計画整理番号	
104020101	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市民を対象(市内在勤を含む)に、各種教室を開催し、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。	各公民館(中央、本納、鶴枝)では主催教室として女性、成人、少年を対象に23教室を平日、夜間及び土曜に開催する。 (講師謝礼:市内2,500円/時、郡内3,000円/時、郡外3,800円/時)
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール

・子ども向け事業の拡大を含めた新規主催事業の実施を検討する。

・平成29年3月:予算確定
 ・平成29年4月:広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集
 ・平成29年5月:随時開催可能な講座の企画

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	0	0	1,190	0	0	1,190	0	0
財 源 内 訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	0	0	1,190	0	0	1,190	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中央公民館主催6教室の実施	494	471	408	開催数:57回・延べ参加人数:908人・出席率:79.79% 実施した主催教室は10教室である。
②	本納公民館主催教室6教室の実施	289	262	253	開催数:40回・延べ参加人数:545人・出席率:71.24% 実施した主催教室は7教室である。
③	鶴枝公民館主催教室9教室の実施	384	361	357	開催数57回・延べ参加人数:691人・出席率:81.1% 実施した主催教室は8教室である。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,167	1,094	1,018	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

中央・本納・鶴枝の各公民館が主催する教室(25教室)については、すべて計画どおり実施された。・開催数:154回・延べ参加人数:2144人・平均出席率:77.38%・予算執行率:93.93%

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020101
1	04	02	01	公民館学級運営費	9	05	02	01 04 07	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
新規主催教室を開催し、当初計画よりも開催数が増加したが、自主グループの発足には到らなかった。		開催数は増えたが、受講者が集まらず参加者数は昨年度よりも減少した。結果新規自主グループの発足には到らなかった。			
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	地域における生涯学習の拠点施設として、各種の講座や事業を実施し、学びや交流の機会を提供した。	A:有効である	誰もがともに学びあう機会を提供し、青少年に限る学習機会も設けることが出来た。充実した事業の展開が図れた。	A:効率的である	市民のニーズに対応した多様なジャンルの主催教室を開催し、多くの市民に学習機会を提供した。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	ホームページや広報等で周知するほか、各公民館で情報を掲示するなどして情報を共有している。	B:実現に向けて取り組んでいる	高齢者が多く、参加者数が減少しているが、青少年を含む新規受講者の獲得に向けて検討する。	A:実現している	地域住民の学習ニーズを積極的に企画、運営に反映させるため、公民館運営審議会を年2回開催している。
所管による評価とその理由、課題・問題点					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	新規主催教室を開催し、青少年の学習機会を設け成果を上げたが、新旧教室の受講者数等については、昨年よりも減少したので、主催教室の内容、周知方法の検討等、新規受講者の獲得に努める必要がある。				
企画政策課での評価とその理由					
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割～7割)	新規主催教室を開催するなど新規受講者の増に向けた取り組みを行い、一定の成果はあったと認められる。しかし、参加人数、出席率共に昨年度より減少していることから、より参加しやすい方策について検討するものとする。				
政策調整会議での評価とその理由					
庁議における方針					

30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
A C T (改 善)	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代の主催教室の開催数の増加と内容の充実、質の向上をめざす。 ・市民のニーズを理解し、教室受講者の自主サークル発足を促進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の増加 ・公民館自主グループの増加
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール	
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の事業拡大を含めた主催教室の向上 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月: 予算確定 ・平成30年4月: 広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集 ・平成30年5月: 随時開催可能な講座の企画 	

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	文化会館主催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	19	03	文化会館主催事業

実施計画整理番号	
104020102	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>市民の文化活動を援助し、教養の向上を図るための講座や事業を充実させる。また、外房地区に映画館のない現状のなか、市民の身近な施設で上質な映画を定期的に提供することにより、文化活動の拠点となるようにする。</p>	<p>・多様なニーズにあった主催教室を実施する。 ・主催事業として、上質な映画や当地域の文化歴史を伝える映画を、市民の協力を得て有料・無料で定期的に上映する。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<p>①主催教室・・・新規教室2講座以上、参加目標人数1,300人。 ②映画会・・・無料映画会目標参加者数800人以上、有料映画会の目標参加者数400人。</p>	<p>①主催教室・・・太極拳入門教室(10回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)うたごえ教室(8回)らくらくヨーガ教室(6回)つるしびな教室(8回)ノートパソコン教室(5回)子どもアレンジフラワー教室(3回)コスヘルコース教室(3回)珈琲教室(2回)オープン料理教室(4回)子ども工作教室(2回) ②映画会・・・大画面でみる映画会(4回)名作映画を大画面で(優秀映画鑑賞推進事業)(10月)</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,817	1,558	1,479	692	0	0	692	0	0	692	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	220	220	200	220	0	0	220	0	0	220	0	0
	一般財源	千円	1,597	1,338	1,279	472	0	0	472	0	0	472	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	主催事業の充実	409	409	409	主催教室を予定通り実施。今後も継続。
②	映画上映会の実施	1,408	1,149	1,070	映画会、有料映画会を予定通り実施。今後も継続。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,817	1,558	1,479	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<p>・主催教室は12教室延べ62回実施、参加者1,471名。 ・「大画面でみる映画会」(無料)は4回延べ8回実施、参加者826名。 ・「名作映画を大画面で！」(優秀映画鑑賞推進事業、有料)は2日間延べ5回実施、参加者662名。</p>	

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020102
1	04	02	01	文化会館主催事業	2	01	19	03	文化会館主催事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	①主催教室は、12教室延べ62回実施し、目標を達成できた。 ②映画会を、年4日全8回、有料映画会2日全5回を実施し、目標を達成できた。				①主催教室は、概ね定員数の申込みがあり、延べ参加者数は1,471名となった。新規教室も開催でき、教養の向上を図れた。 ②映画会は無料映画会826名、有料映画会662名の参加があった。有料映画会は実行委員会を中心に市民協働で行うことができ、市民の文化活動を援助できた。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である		A:有効である		A:効率的である		必要最低限の費用で、質の高い事業を実施できている。	
	低料金で様々な活動の機会を提供する主催教室や、映画鑑賞の場を提供する映画会は、自治体を実施すべき文化事業である。		主催教室をきっかけに、自己啓発のため自主活動や民間の教室に参加する方も多くいる。映画会は近隣に類似事業はなく満足度が高い有効な事業である。					
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している		A:実現している		A:実現している		有料映画会を市民協働で実施している。	
	広報、民間情報誌、新聞などにも近隣自治体にも配布するなど、広く情報が届くようにしている。		休日に主催事業を開催するなど、参加者層の拡大を図っている。					
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		①主催事業は、太極拳など運動系の教室や、料理教室やパソコン教室など多彩な教室を実施した。新規のヨガ教室やうたごえ教室も人気が高く、充実した事業となった。市民のニーズに合っているかの見極め、新規教室や講師の選定が今後の課題である。 ②映画会は年4回延べ8回の実施で参加者826名と定着してきている。有料映画会は開催2年目となり、実行委員会と市民協働により実施できた。映画は上映演目により参加者層が変動するものであり、上質な作品と集客力のバランスを考慮しての作品選びが重要であり課題である。					
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		主催教室、映画会ともに参加者数が目標を超えており、当初の目的を達成していると認められる。今後も、市民ニーズの把握に努め、参加者の増加を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	①主催教室…市民のニーズに合った教室を10教室以上実施する。 ②映画会…音楽ホール天井工事のため無料映画会の回数は減ってしまうが、楽しみにしてくれている方の期待に添えるように上質な映画を上映する。				①主催教室…満足感の得られる教室を開催し、市民の教養の向上を図る。 ②映画会…無料映画会は満足度向上のため上質な映画を選定し、有料映画会は実行委員会を中心とした活動とボランティアの活用をし、市民の文化活動を援助する。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
①主催教室…新規教室1教室以上、参加者の定員割れを失くす。 ②映画会…無料映画会の参加者数の増加、有料映画会の目標参加者数 450人以上。				①主催教室…太極拳教室(10回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)うたごえ教室(6回)子どもアレンジフラワー教室(3回)フラダンス教室(5回)ノートパソコン教室(5回)子ども工作教室(2回) ②映画会…大画面でみる映画会(2回)名作映画を大画面で(優秀映画鑑賞推進事業、2日間4回)(10月)				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

実施計画整理番号	
104020201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要									
PLAN (計画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>社会教育関係団体の活動を支援し、活動を活性化させる。</td> <td>各団体に補助金を交付するとともに、リーダー研修や婦人学級等を開催する。</td> </tr> <tr> <th>平成29年度の具体的な目標</th> <th>平成29年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 研修会、講習会の開催による人材の確保、養成。 各種団体の会員数の減少を抑制する。 </td> <td> 各団体への補助金の交付。 ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) 指導者の発掘、養成を図るための研修会の開催。 </td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	社会教育関係団体の活動を支援し、活動を活性化させる。	各団体に補助金を交付するとともに、リーダー研修や婦人学級等を開催する。	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 研修会、講習会の開催による人材の確保、養成。 各種団体の会員数の減少を抑制する。 	各団体への補助金の交付。 ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) 指導者の発掘、養成を図るための研修会の開催。
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
社会教育関係団体の活動を支援し、活動を活性化させる。	各団体に補助金を交付するとともに、リーダー研修や婦人学級等を開催する。								
平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール								
<ul style="list-style-type: none"> 研修会、講習会の開催による人材の確保、養成。 各種団体の会員数の減少を抑制する。 	各団体への補助金の交付。 ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) 指導者の発掘、養成を図るための研修会の開催。								

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	888	888	863	888	0	0	888	0	0	888	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	888	888	863	888	0	0	888	0	0	888	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	連合婦人会の活動支援	214	214	189	茂原市連合婦人会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
②	PTA連合会の活動支援	51	51	51	茂原市PTA連合会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
③	ボーイスカウト活動支援	24	24	24	ボーイスカウト茂原第2団に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
④	子ども会育成支援	599	599	599	茂原市子ども会育成連合会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		888	888	863	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- 各団体に補助金を交付し、活動を支援した。
- ①連合婦人会 169千円(七夕おどり、バザー、地区別研修会等)
- ②PTA連合会 51千円(講演会、研修等)
- ③ボーイスカウト茂原第2団 24千円(ハイキング、奉仕活動等)
- ④子ども会育成連合会 580千円(キャンプ研修、新年交歓会、わくわく研修等)
- 指導者の養成について、婦人会では中央研修会と婦人学級、子ども会では育成者講習会を開催した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020201
1	04	02	02	社会教育団体支援事業	9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 4件 ・講習会等の開催回数 5回 				<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 4団体 ・講習会等の参加人数 79人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	青少年教育の充実や女性の社会参加の促進を図るために各団体に補助金を交付し、活動を支援することは妥当である。	A:有効である	青少年教育の充実や女性の社会参加の促進等、各団体の目的達成のために補助金が有効活用されている。	A:効率的である	団体の運営資金の一部を補助しており、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	補助金交付要綱をウェブページで公表している。	A:実現している	補助金交付要望書により要望を取り入れている。	A:実現している	団体との情報共有や適切な役割分担を行っている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	運営費の補助による活動支援を行うとともに、会員減少や役員のなり手不足等の課題を抱える婦人会や子ども会については、指導者を対象とした講習会を開催するなど人材育成に努め、組織強化を図った。青少年教育の充実や女性の社会参加を一層進めていくためには、今後も関係団体に対する継続的な支援が必要である。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	団体への補助金交付により、活動の活性化が図られたと認められる。講習会の開催回数、参加人数が前年度より減少していることから、組織強化のため団体に引き続き支援・助言を行うものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 ・講習会等の開催回数 				<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 ・講習会等の参加人数 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、講習会の開催による人材の養成。 ・各種団体の会員数の減少を抑制する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・各団体への補助金の交付。 <ul style="list-style-type: none"> ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) ・指導者の養成を図るための研修会の開催。 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

実施計画整理番号	
105020101	
総合戦略 整理番号	32202

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市民の健康づくり・体力づくりを推進し、健康で明るい活力に満ちた生活の実現を目指す。	基本的な運動技術の習得を目標に各種スポーツ教室を開催する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
・受講者数	ヨーガ教室 5～7月・9～11月 計20回 太極拳教室 5～7月・10～12月 計20回 美と健康づくり体操教室 5～7月・10～12月 計20回 ノルディックウォーキング教室 12月～2月 計4回 エアロビクスダンス教室 10月～3月 計18回 Jr. バレーボール教室 12/17	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	945	945	881	945	0	0	945	0	0	945	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	945	945	881	945	0	0	945	0	0	945	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	各種スポーツ教室の開催	945	945	881	一般対象5教室 中学生対象1教室 今後も継続予定
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		945	945	881	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
ヨーガ教室 5～7月・10～12月 計20回 受講者数194人(28年度220人) 太極拳教室 5～7月・10～12月 計20回 受講者数120人(28年度123人) 美と健康づくり体操教室 5～7月・10～12月 計20回 受講者数90人(28年度118人) ノルディックウォーキング教室 2月～3月 計4回 受講者数22人(28年度22人) エアロビクスダンス教室 10月～3月 計10回 受講者数 39人(28年度28人) Jr. バレーボール教室 12/17 受講者数 150人 (28年度150人)

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	105020101
1	05	02	01	スポーツ教室事業	9	06	01	02	スポーツ教室事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	各種スポーツ教室を6教室開催した。				6教室615人参加した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	市民のスポーツをするきっかけづくりとして、自治体が事業を実施するのは妥当である。	B:やや有効である	定員を超える応募がある教室もあることから、市民のスポーツをするきっかけづくりとして、成果が得られている。	A:効率的である	受益者負担の立場から傷害保険等は、受益者が負担している。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	広報等で、市民に情報を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる	教室に対しての要望等を確認している。	B:実現に向けて取り組んでいる	閉講後、参加者の一部がリーダーとなり教室が開催されていない期間に自主的に活動している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	市民に定着している事業であり、教室開催の要望が多いが、受講者の年代・性別に隔たりが多いことから、幅広い年齢層が参加できるように、平日夜間にエアロビクス教室と休日にノルディックウォーキング教室を開催した。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	28年度と比較して参加者数が減少している。「市民ひとり1スポーツ」の理念実現のため、より多くの市民が参加できるように工夫されたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	各種スポーツ教室を開催する。				多くの受講者が受講できるようにする。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
新たな教室の企画、教室の受付方法等				ヨーガ教室 5~7月・10~12月 計20回 太極拳教室 5~7月・10~12月 計20回 美と健康づくり体操教室 5~7月・10~12月 計20回 トレーニング教室 随時 エアロビクスダンス教室 10月~3月 計18回 Jr. バレーボール教室 12/16				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	03	スポーツ振興事業

実施計画整理番号	
105020102	
総合戦略整理番号	32203 32204

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市民に、スポーツに触れ合う機会を数多く提供し、市民の健康増進を図り、スポーツを通じて、健康で活気あるまちづくりを推進する。また茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化を図り、競技スポーツと青少年の健全育成を推進する。	タッチバレーボール大会・ファミリースポーツまつり・スポレク祭等を開催する。体育協会と共催で市民体育祭を開催する。体育協会とスポーツ少年団に補助金を交付し支援する。総合的な、スポーツの振興に関する事項を審議するため、スポーツ推進審議会を開催する。総合型地域スポーツクラブ検討委員会を設置する。大相撲茂原場所の開催をする。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
事業への参加人数(累計)の増加	誰でも気軽に参加できるスポーツレクリエーションの振興を図るため、各種スポーツ大会やイベントを開催する。また体育協会と共催で市民体育祭を開催し、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。さらに、スポーツを通じた地域づくりを推進するため、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	0	0	7,637	0	0	7,637	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	0	0	7,637	0	0	7,637	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	体育協会と共催し市民体育祭の開催	1,082	1,012	1,012	体育協会と共催し、23競技を実施。現状維持。
②	各種スポーツイベントの開催	2,806	2,446	2,339	スポーツに取り組むきっかけ作りを目的としたイベントを開催。今後も継続する。
③	体育協会活動とスポーツ少年団活動の支援	2,257	2,257	2,257	体育協会とスポーツ少年団へ活動補助金を交付し、各組織の自主的活動への支援した。今後も継続する。
④	スポーツ推進審議会の開催	174	174	94	茂原市のスポーツ推進の現状を審議し、今後の具体的な取り組み事項について審議した。今後も継続する。
⑤	トップアスリートによる講演会	0	0	0	
⑥	総合型地域スポーツクラブ設立に向けての検討・準備・設立	290	290	159	緑ヶ丘地区に緑ヶ丘スポーツクラブが設立された。
⑦	市民マラソン大会の検討	0	0	0	
⑧	スポーツ掲示板啓発	20	20	0	
⑨	鍛山部屋ふれあい相撲・(仮称)大相撲茂原場所の開催	1,000	1,000	1,000	大相撲力士を招いて、公開稽古や市民と力士との交流を行い約1000人の来場者をお迎えした。
⑩	宝くじスポーツフェアドリーム・ベースボールの開催	1,697	2,784	2,603	往年の元プロ野球選手による野球教室や、トークショー等を行い約2000人の来場者をお迎えした。
⑪	スポーツ推進委員活動	951	951	900	市発祥のスポーツ、タッチバレーボールの普及をはじめ、スポーツ推進事業の実働を行った。今後も継続する。
事業費計		10,277	10,934	10,364	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

①市民スポーツの推進に関するイベントの企画・運営を協議するため、スポーツ推進委員会議を7回開催した。
 ②市民体育祭を23競技で開催した。 8月20日～11月26日 参加人数 3,695人。
 ③各種スポーツ大会の開催。 第3回もばらタッチバレーボール千葉県大会、ファミリースポーツまつり・茂原市スポレク祭・エンジョイスports教室等
 ④スポーツの推進に関する事項について調査・審議するため、スポーツ推進審議会を2回開催した。
 ⑤茂原市の実情に適した総合型地域スポーツクラブの設立を支援するため、検討委員会を3回開催した。

DO
(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	105020102
1	05	02	01	スポーツ振興事業	9	06	01	03	スポーツ振興事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況					
	市民体育祭、ファミリースポーツまつり、茂原市スポレク祭、タッチバレーボール大会、エンジョイスports教室等を開催した。また、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する検討委員会を開催した。					各種事業に述べ7,027人が参加した。					
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である		スポーツの推進には単に楽しむ機会の提供をするだけでなく、スポーツを通じて市民の健康増進に繋がることが自治体の役割として必要である。		A:有効である		市民の健康増進のきっかけづくりとして、各種スポーツ事業を実施することは有効である。		A:効率的である		各種事業必要最小限の費用により事業は実施されている。
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している		広報、自治会回覧、小中学校配布、ウェブページでの情報発信に加え、フェイスブックを活用してタイムリーな情報発信に取り組む。		A:実現している		各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。		A:実現している		各種事業の運営においては、専門知識を持った団体と協働し、スポーツ事業を実施した。
	所管による評価とその理由、課題・問題点										
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		スポーツ推進計画に基づき、着実に事業の達成が図られている。課題として、各種事業が増大し、指導者や運営スタッフが必要となるため、今後、スポーツボランティア登録制度の設置に取り組んでいく。									
企画政策課での評価とその理由											
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		各種イベントの参加者は増加しており、一定の成果が認められるが、市民の健康づくりのきっかけに繋がる取組等を考慮するとともに、事業の取捨選択も検討するものとし、併せて運営体制を整えるものとする。									
政策調整会議での評価とその理由											
(この欄は斜線が入ります)											
庁議における方針											
(この欄は斜線が入ります)											

A C T (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	スポーツ推進に係る事業の開催数					事業への参加人数				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、より多くの市民がスポーツを行う環境をつくるため、小学校区を基準とした地区スポーツ活動事業を行う。併せて、緑ヶ丘地区に設立した総合型地域スポーツクラブの支援も行っていく。また、障害者スポーツの推進も行き、障害者スポーツの教室や体験会を開催する。					協働するスポーツ推進委員等、他団体との連携をとるため、定期的な意見交換の場を設け、お互いの役割を明確にして、取り組んでいく。 ※茂原市スポーツ推委員会議年7回実施					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	01	01	新市民会館建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業

実施計画整理番号	
106010101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	昭和43年に開館した市民会館は、施設や設備の老朽化が進んでおり、市民の多様化したニーズへの対応が困難となっている。このため、茂原市総合計画に基づき、新文化会館(複合施設)建設の検討を行う。	建設の必要性を含めて、基本的な機能、役割等について検討し、市民や専門家等の幅広い意見を集約の上、基本構想及び民間活力の導入可能性調査及びその後の計画を策定する必要がある。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
(仮称)茂原市民会館建設基本構想の策定 ・基本構想の背景、基本理念、機能構成、管理運営に関する考え方の検討	(仮称)茂原市民会館建設基本構想策定支援業務委託契約の締結 ・現施設の状況把握及び課題整理 ・(仮称)茂原市民会館建設の基本的な考え方の検討 ・市民や中高生のワークショップの開催 ・先進地視察やシンポジウムの開催	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	0	0	0	0	0	50,000	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	0	0	0	0	0	50,000	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	新市民会館建設基本構想の策定	10,228	10,228	10,184	策定支援業務委託契約を締結し、基本構想を策定。建設に向け、建設基本計画等の策定を今後進める。
②	新市民会館建設基本計画の策定及び民生活導入調査可能性調査	0	0	0	
③	新市民会館建設基本設計	0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		10,228	10,228	10,184	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・(仮称)茂原市民会館建設基本構想策定支援業務委託事業者をプロポーザルにて選定し契約締結。
- ・市民アンケート2,000人、周辺住民アンケート1,000人、利用団体アンケート140団体、ヒアリング39団体、市民ワークショップ5回、中高生ワークショップ、成人式アンケート224名、先進地視察14名、シンポジウム110名、庁内検討委員会2回、大学教授4名からなる基本構想策定アドバイザー会議3回などを開催し、基本構想を策定した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106010101
1	06	01	01	新市民会館建設事業	2	01	09	07	新市民会館建設検討事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	市民アンケート2,000人、周辺住民アンケート1,000人、利用団体アンケート140団体、ヒアリング39団体、市民ワークショップ5回、中高生ワークショップ、成人式アンケート224名、先進地視察14名、シンポジウム110名、庁内検討委員会2回、大学教授4名からなる基本構想策定アドバイザー会議3回等の開催					(仮称)茂原市民会館建設基本構想の策定				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 文化芸術によって人々に安らぎを与え、創造力や表現力を引き出す拠点として、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供するため。			A:有効である 再整備の必要性を検討し、基本理念や基本的な役割を設定できた。			A:効率的である アンケートやワークショップにより、幅広い市民意見の聴取や他市先行事例の研究や専門家の意見を参考にできた。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している アンケートの実施、市民参加によるワークショップやシンポジウムの開催やその内容のWEBへの掲載			A:実現している 市民ワークショップやシンポジウムの開催			A:実現している 市民ワークショップやシンポジウムの開催			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) (仮称)茂原市民会館建設基本構想策定支援業務委託契約をプロポーザルにより、(株)シアターワークショップと締結。市民アンケート2,000人、周辺住民アンケート1,000人、利用団体アンケート140団体、ヒアリング39団体、市民ワークショップ5回、中高生ワークショップ、成人式アンケート224名、先進地視察14名、シンポジウム110名、庁内検討委員会2回、大学教授4名からなる基本構想策定アドバイザー会議3回などを開催し、建設に向けた基本理念等を定めた基本構想を策定した。										
企画政策課での評価とその理由										
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 基本構想の策定により、当初の目標は達成していると認められる。今後も様々な意見を取り入れるとともに、建設に向けより詳細な計画を策定するものとする。										
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)茂原市民会館建設基本計画策定等支援業務委託契約を締結 ・基本計画、整備手法、概算事業費、事業スケジュールの検討 ・市民ワークショップ、中高生ワークショップ、庁内検討委員会、先進地視察の実施 					(仮称)茂原市民会館建設基本計画の策定				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設機能や規模、概算事業費、管理運営の検討 ・整備手法、概算事業費の検討 ・事業スケジュールを検討した(仮称)茂原市民会館建設基本計画の策定 					(仮称)茂原市民会館建設基本計画策定等支援業務委託契約の締結 <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の策定 ・整備手法及び概算事業費の検討 ・市民や中高生のワークショップの開催 ・先進地視察やシンポジウムの開催 					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

実施計画整理番号	
106020101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生涯学習活動、文化活動の成果の発表の場を提供し、市民の文化意識の向上を図る。	茂原市文化協会との共催により、茂原市文化祭を開催する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。	第66回茂原市文化祭(10月22日～12月13日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	477	477	420	477	0	0	477	0	0	477	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	477	477	420	477	0	0	477	0	0	477	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市文化祭の開催	477	477	420	茂原市文化祭実行委員会を組織し、美術館・郷土資料館ほか9会場にて開催(1会場雨天中止)。今後も実施していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		477	477	420	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
第66回茂原市文化祭(10月30日～12月13日)美術館・郷土資料館ほか9会場にて開催(1会場雨天中止)。出品・出演者数3,341名 入場者数11,252名

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

整理番号
106020101

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	文化祭の開催日数 10月30日～12月13日 21日間 会場数 10会場		来場者数 11,252名 出演団体数、出演者数、出品者数 3,341名			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	市と文化協会が共催することで、市民の芸術文化活動が推進できる。	A:有効である	市民の芸術文化活動の発表の場を提供することで活動の推進を図る。	A:効率的である	各々の団体の発表の機会を一度に設けることで入場者の増加を期待できる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	市広報、市ホームページ、自治会回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。	A:実現している	茂原市文化祭実行委員会を組織し、参加者や参加団体の要望の機会を提供している。	A:実現している	市と文化協会等の文化団体により茂原市文化祭実行委員会を組織し、市民と協働による事業運営を行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各団体と会場の割り振りや日程について協議しながら進めることで、効率的かつ市民が来場しやすい事業を計画した。今後も限られた施設規模のなかで効率的な事業運営が必要である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	市民の文化活動を発表する機会、及び、市民が文化活動に触れる機会を提供することができ、十分な成果を挙げることができたと認められる。引き続き関係団体と連携して、市民の文化意識の向上を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	文化祭の開催日数 会場数		来場者数 出演団体数、出演者数、出品者数	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。		第67回茂原市文化祭(10月28日～12月12日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	美術館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	01	美術館展示事業

実施計画整理番号	
106020102	
総合戦略整理番号	32103

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	広く市民に芸術文化に触れ、鑑賞できる機会を提供し、地域の芸術文化事業の充実を図るとともに、その振興に資する。	地域ゆかりの作家の作品について周知を図るため、美術収蔵品展の開催を基本としながら、平成31年度には、当館の目玉となる林功作品を生かした企画展を開催する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	収蔵品展を開催し、地域の芸術文化の振興に資することを目標とする。	平成28年度からの継続展覧会を含め、年9回の収蔵品展を開催、各収蔵品展ポスターはA3で作成し、計131ヶ所に配布しPRに努める。学芸員によるギャラリートーク年4回開催。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	155	155	151	80	0	0	3,000	0	0	80	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	340	0	0	0	0
	一般財源	千円	155	155	151	80	0	0	2,660	0	0	80	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術収蔵品展の開催	155	155	151	プリンターでのポスター作成とPR今後も継続。平成31年度企画展での美術品貸出依頼(出張)完了。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		155	155	151	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

収蔵品展は、平成28年度からの継続展覧会を含めて、年9回開催した。
 会期中の入館者は、42,010人(目標数値28,000人)。
 収蔵作品1,156点(平成28年度末の収蔵・寄託の合計・29年度末には1,404点に増加)中、185点を展示(目標数値140点以上)。
 学芸員による解説会および王子江氏によるギャラリートーク合せ4回開催、参加者195名(目標数値60人)
 平成31年度の企画展開催に向けて、美術品貸出依頼先に出張の上、貸出内諾を得て完了。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020102
1	06	02	01	美術館展示事業	9	05	05	01	美術館展示事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況
活動指標どおり、各収蔵展ポスター作成、配布を実施した。特に王子江 雄原大地展では、王子江後援会の各段の協力によりB2版の大型ポスターを作成、配布した。年間展示作品数、展示解説会も活動指標を上回って達成。	収蔵品展の会期中における入館者は、目標数値を超え42,010人であった。

妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 学芸員の調査研究を踏まえて、美術館収蔵の作品・新収蔵の作品を展示し、広く市民に芸術文化に触れる機会を提供するものである。	A:有効である 唯一無二の美術館収蔵作品を展示するため、類似事業は無い。また、作者によるギャラリートーク開催は、貴重な機会の提供であった。	A:効率的である 必要最低限の消耗品予算のみで事業を行った。作者によるギャラリートークはボランティアで実現できた。

「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
B:実現に向けて取り組んでいる ホームページ公表、広報、情報誌掲載、ポスター配布を行っているが、更なる工夫を考えたい。	B:実現に向けて取り組んでいる 開館日数を多くして展覧会期を長く設けるとともに、第1、第2の展示室のいずれかは観覧できるよう努めているが、完全ではない。	A:実現している 作家の後援会との共催による展覧会開催により、個人所蔵の作品展示を実現できた。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	会期中の入館者数、年間展示点数は、目標を大きく上回っており、新収蔵作品展や、地域の代表的な画家を取り上げた展覧会開催は意義深い。共催団体の展示、文化祭開催も重要な事業であり、すべて開催を行った。一年を通じて収蔵品を鑑賞できる「常設展示」は無いものの、ホームページを事前に確認の上、来館するスタイルが来館者に定着しつつあるようである。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	入館者数が前年度に比べて大幅に伸びており、市民に対し芸術文化に触れる機会を提供するという目的は達成されていると認められる。今後も引き続き展示方法の工夫や、展示に併せたイベント開催などにより、さらに多くの市民が足を運ぶよう努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
年間展示作品数は、収蔵作品1,404点(平成29年度末の収蔵・寄託の合計)中、200点以上を活動指標とする。	収蔵品展の会期中において28,000人の入館者を成果指標とする。学芸員によるギャラリートーク年4回の参加者60人を成果指標とする。

30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール
平成29年度からの継続展覧会を含め、年11回の収蔵品展を開催、各収蔵品展ポスターはA3で作成し、約130ヶ所に配布しPRIに努める。さらに千葉県移動美術館を開催、ポスター・チラシ作成の上、県内約190ヶ所への配布、またチラシの自治会回覧を行いPRIに努める。学芸員によるギャラリートーク年4回開催。	収蔵品展を開催し、地域の芸術文化の振興に資することを目標とする。

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	芸術文化講座事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	03	芸術文化講座事業

実施計画整理番号	
106020103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要									
P L A N (計 画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>広く市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供する。</td> <td>美術実技講座、郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座などを開催する。</td> </tr> <tr> <th>平成29年度の具体的な目標</th> <th>平成29年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td>各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。</td> <td>小学生講座2回、一般向け美術講座3種4回、郷土文化講座1回、歴史セミナー2回、古文書講座9回を開催予定。</td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	広く市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供する。	美術実技講座、郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座などを開催する。	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール	各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。	小学生講座2回、一般向け美術講座3種4回、郷土文化講座1回、歴史セミナー2回、古文書講座9回を開催予定。
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
	広く市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供する。	美術実技講座、郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座などを開催する。							
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール							
各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。	小学生講座2回、一般向け美術講座3種4回、郷土文化講座1回、歴史セミナー2回、古文書講座9回を開催予定。								

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	100	100	100	98	0	0	100	0	0	98	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	100	100	100	98	0	0	100	0	0	98	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術実技講座の開催	55	55	55	小学生講座2回開催、一般向け講座3種4回開催。今後も継続。
②	郷土文化講座・歴史セミナーの開催	15	15	15	費用の発生しない歴史セミナーを2回開催。カヤカヤ馬を作る講座開催。
③	古文書講座の開催	30	30	30	9回開催。うち3回分は講師のボランティア。今後も継続。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		100	100	100	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

年間受講者数は、それぞれ合計で、美術実技講座70人、郷土文化講座10人、歴史セミナー55人、古文書講座36人であった。なお、子ども向けの新規事業として、県民の日に「こどもたちあつまれ！ぐるっと美術館探検」を開催し、48人の参加があった。好評であった為、今後の継続を検討している。

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020103
1	06	02	01	芸術文化講座事業	9	05	05	03	芸術文化講座事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	(講座の開催回数) 指標設定どおり、美術講座は、小学生講座2回、油絵講座1回、 トールペイント講座1回、墨彩画講座2回を開催。 郷土文化講座1回、歴史セミナー2回、古文書講座全9回開催。				活動指標どおりに講座を開催し、いずれの講座も8割以上の参加者が あった。また、子供向け新規事業は参加者数も大きく、大変好評で あった。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	美樹講座は、民間・個人教室との重複がある。郷土文化講座等には民間開催は無い。いずれも芸術文化振興の点は、総合計画に合致する。	A:有効である	美術講座は、民間・個人教室との類似性が高いため、初心者向けの体験講座としている。郷土文化講座等では、民間との類似性は低い。	A:効率的である	一部講師にはボランティアで講師を務めて頂いている部分があるので、費用的には効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	ホームページ公表、広報、情報誌掲載を行っているが、更なる工夫を考えた。	B:実現に向けて取り組んでいる	講座の開催日程については、参加者アンケートを参考に、講師と協議している。	B:実現に向けて取り組んでいる	講座の内容については、参加者アンケートや参加時のご意見を元に、講師と協議している。		
所管による評価とその理由、課題・問題点								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	8割以上の参加者数があり、また新規事業が好評であった。しかしながら美術講座については、民間・個人教室との類似性が高いため、初心者向けに1回で作品を完成できる内容としているが、各講座とも、参加者のニーズに答えられるような内容の検討・工夫が必要である。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	参加者数が目標を上回り、一定の成果があったと認められる。事業目的を鑑みて、美術講座など民間事業と類似性が高いものについては、内容を工夫して、より多くの参加が得られるように図るものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	(講座の開催回数) 美術講座は、小学生講座定員12人、油絵講座定員12人、ガラスモザイク講座12人、墨彩画講座2回定員各16人で開催。 県民の日のこども向けイベントは定員を設けず開催。 歴史セミナー定員30人を3回、古文書講座定員30人で開催。				(参加者数) 各講座の7割を目標数値とする。美術講座では、小学生講座9人、油絵講座9人、ガラスモザイク講座9人、墨彩画講座24人以上。歴史セミナー・古文書講座では、各21人以上。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
小学生講座1回、一般向け美術講座3種4回、歴史セミナー3回、古文書講座9回を開催予定。 また、県民の日子どもむけイベントの他、新規事業として茂原公園内でのクイズイベントを開催予定。				各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	02	文化振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	08	文化振興事業

実施計画整理番号	
106020201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市民生活に豊かさを与え、文化の薫り高い茂原市を築く。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 芸術文化鑑賞会や小中学校音楽鑑賞教室を実施する。各文化団体を支援する。
平成29年度の具体的な目標 より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。	平成29年度スケジュール 小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)南中・本納中(小)二宮小・西小・五郷小・萩原小・豊岡小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	3,848	3,848	3,758	3,848	0	0	3,848	0	0	3,848	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,323	2,323	2,324	2,323	0	0	2,323	0	0	2,323	0	0
	一般財源	千円	1,525	1,525	1,434	1,525	0	0	1,525	0	0	1,525	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	小中学校音楽鑑賞教室の開催	630	630	540	実施予定の7校において実施した。今後も実施していく。
②	芸術文化鑑賞会の開催	0	0	0	親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞機会を提供した。今後も実施していく。
③	もばら音楽祭の支援	310	310	310	もばら音楽祭実行委員会が企画運営する音楽祭に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
④	文化団体の活動支援	2,908	2,908	2,908	文化団体に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,848	3,848	3,758	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

小中学校音楽鑑賞会の開催(中)南中・本納中(小)二宮小・西小・五郷小・萩原小・豊岡小
 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会
 もばら音楽祭の支援 「VIVA!!コーラス」
 文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

PLAN(計画)

DO(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020201
1	06	02	02	文化振興事業	9	05	01	08	文化振興事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	音楽鑑賞教室の開催日数 7校で1回実施、全7回 芸術文化鑑賞会の開催日数 全5回 補助金の交付件数 5件				音楽鑑賞教室の参加者数 2,326名(実施校の児童生徒数により増減) 芸術文化鑑賞会の参加者数 160名 活動が活性化された団体数 全ての団体で活発な活動が行われた。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	芸術文化事業の実施や文化団体を支援することで、市民の芸術文化活動を推進できる。	A:有効である	事業(団体)を継続的に実施、支援していくことが芸術文化の振興につながり、文化団体の安定的な活動も期待できる。	A:効率的である	初心者や小中学生が親しみやすい事業の計画や補助金交付団体の補助対象経費の精査を行っている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市民参加の事業は、市広報、ホームページで募集している。小中学校音楽鑑賞教室は保護者への案内も行っている。	A:実現している	芸術文化鑑賞会は参加者から口頭で感想などを聞いている。小中学校音楽鑑賞教室は感想や要望を報告書に記載している。	A:実現している	小中学校音楽鑑賞教室は実施校に企画立案を任せることで特色ある事業を実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	芸術文化鑑賞会は定員を超える申込みもあり概ね好評である。引き続き親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞の機会を充実させていく。小中学校音楽鑑賞教室は、日頃接する機会の少ない楽器等の生演奏を鑑賞できる機会として学校、児童生徒から好評を得ている。文化団体(事業)の支援を継続していくことで、市民文化活動が継続され、芸術文化の振興につながる。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	文化団体を継続的に支援することで組織活動の強化が図られ、十分な成果が挙げられたものと認められる。引き続き多くの市民が芸術文化に触れる機会を得られるように努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	音楽鑑賞教室の開催日数 芸術文化鑑賞会の開催日数 補助金の交付件数				音楽鑑賞教室の参加者数 芸術文化鑑賞会の参加者数 活動が活性化された団体数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。				小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)東中・早野中(小)鶴枝小・中の島小・新治小・東部小・緑ヶ丘小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	文化財保護保存事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	10	文化財保護保存事業

実施計画整理番号	
106030101	
総合戦略整理番号	32303

事務事業の概要									
PLAN (計画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>文化遺産である文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりその普及を図る。</td> <td>茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護保存、郷土芸能保存団体の活動支援を実施する。</td> </tr> <tr> <th>平成29年度の具体的な目標</th> <th>平成29年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td>水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。文化財の調査を実施し、保護保存に努める。郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。</td> <td>ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼</td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	文化遺産である文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりその普及を図る。	茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護保存、郷土芸能保存団体の活動支援を実施する。	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール	水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。文化財の調査を実施し、保護保存に努める。郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。	ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
文化遺産である文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりその普及を図る。	茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護保存、郷土芸能保存団体の活動支援を実施する。								
平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール								
水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。文化財の調査を実施し、保護保存に努める。郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。	ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼								

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,451	2,501	2,351	1,253	0	0	1,680	0	0	1,253	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	268	268	279	268	0	0	268	0	0	268	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	140	140	49	140	0	0	140	0	0	140	0	0
	一般財源	千円	1,043	2,093	2,023	845	0	0	1,272	0	0	845	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ミヤコタナゴ・ヒメハルゼミ発生地の保護活動	437	437	398	保護協議会を開催するとともに、地元住民と協働し保護に努めた。
②	市指定文化財及び文化遺産の保護・管理活動	538	538	521	市指定文化財等の保護保存、文化財管理者への管理謝礼を支払った。
③	郷土芸能等保存団体の活動支援	285	285	285	保存団体に対して財政的な援助を行った。今後も支援していく。
④	郷土芸能発表会の開催	60	60	24	発表会を開催することで、郷土の伝統芸能に触れる機会を提供した。
⑤	茂原市文化財審議会の開催	131	131	73	文化財の散逸を防ぎ後世に伝えるため、文化財の調査・指定等を行った。
⑥	文化財保存事業における補助	0	1,050	1,050	県指定文化財になっている三ヶ谷永興寺の「木造釈迦如来立像附紙本墨書納入文書一括」の修復を行った。
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,451	2,501	2,351	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催
 ヒメハルゼミ発生地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催
 郷土芸能等保存会への補助金交付、郷土芸能発表会の開催(7月29日)2団体出演
 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定(2件)旧石倉家文書・長尾宝泉寺の磨崖仏及び扁額、市指定文化財管理謝礼36件

DO
(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030101
1	06	03	01	文化財保護保存事業	9	05	01	10	文化財保護保存事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	地元住民と協働による環境整備の実施回数 4回(タナゴ、セミ) 協議会等の開催回数 5回(文化財、セミ、タナゴ) 調査の実施回数 3回(セミ) 郷土の文化財に触れる機会の提供回数 2回(郷土芸能、タナゴ)				参加人数 環境整備 タナゴ54名 セミ2名 ミヤコタナゴ自然観察会 53名 ヒメハルゼミ抜殻調査 155名				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由				
	A:妥当である		A:有効である		A:効率的である		文化財審議会や保護協議会等の意見をまとめながら事業を進めている。		
	国県市指定文化財等の保護保存を図ることで、文化財に対する理解を深める。		文化財に対する理解が深まることで、郷土愛を育成することができる。						
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由		
	A:実現している			A:実現している			A:実現している		
	市広報紙や市ホームページを活用して文化財に関する情報を提供している。			保護協議会に地元住民や関係団体が参加することで意見や要望の機会を提供している。			環境整備や郷土芸能発表会を地元住民や保存団体と協働して行っている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点								
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		ミヤコタナゴ、ヒメハルゼミ発生地環境整備は、地元住民、関係機関と協働し環境改善が図られている。市指定文化財を新規に指定し、文化財の保護保存、周知を図った。郷土芸能等保存団体に対し財政的援助を行うとともに、発表会を開催し郷土の文化に触れる機会を提供した。						
企画政策課での評価とその理由									
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		いずれの取り組みも、文化財の保護保存という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き関係団体等と連携することで、文化財の保護保存及び郷土芸能の継承を図るものとする。							
政策調整会議での評価とその理由									
庁議における方針									

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	地元住民と協働による環境整備の実施回数 協議会等の開催回数 調査の実施回数 郷土の文化財に触れる機会の提供回数				参加人数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 文化財の調査を実施し、保護保存に努める。 郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。				ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	郷土資料館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	02	郷土資料館展示事業

実施計画整理番号	
106030103	
総合戦略整理番号	32103

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>広く市民に文化財を公開し、郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供することにより、文化財に対する理解を深め、文化財保護思想を普及する。</p>	<p>郷土の歴史について周知を図るため、郷土資料館常設展示を開催する。 特に子どもたちへの理解と愛着を深められるよう、学校からの見学への解説対応や出前講座などを行う。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<p>常設展示の他、テーマ展、昭和の小部屋コーナー展示等の開催により、広く文化財を公開し、文化財保護思想を普及する。</p>	<p>常設展示を開催すると共に、テーマ展、昭和の小部屋コーナー等の展示内容について企画を練り、定期的な展示替えを行う。2階市民ギャラリーは、利用状況に応じ、空き期間が長い場合は、随時、郷土の昔の写真展示等を行う。学校からの見学依頼、出前講座の依頼があった場合は、積極的に対応する。</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	26	26	26	26	0	0	26	0	0	26	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	26	26	26	26	0	0	26	0	0	26	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	常設展の開催	26	26	26	テーマ展の開催(3回)、昭和の小部屋コーナー展示品の入替(8回)、昔の写真展開催(2回)等に伴う展示用消耗品の購入。今後も継続
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		26	26	26	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

平成28年度からの継続展示を含め、年4回のテーマ展を開催。入館者数は47,603人。
昭和の小部屋のコーナ展示替えを年8回行った。
2階市民ギャラリーにて昔の写真等の資料展示を2階開催。
学校からの見学の対応、小中学校等への出前講座を行なった。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030103
1	06	03	01	郷土資料館展示事業	9	05	05	02	郷土資料館展示事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	活動指標どおり、平成26年度からの継続展示を含め、年4回のテーマ展を開催。昭和の小部屋のコーナー展示替えを年8回開催。2階市民ギャラリーにて昔の写真等の資料展示を2回開催した。学校からの見学への解説対応、小中学校等への出前講座を行った。				年間入館者数は、目標数値を大きく超え47,603人だった。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	学芸員の調査研究を踏まえ、市内に現存する優れた文化財を展示し、広く市民に郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供するものである。	A:有効である	近隣他館との類似性はあるが当館でのみで見られない歴史資料や考古資料等を展示している。	A:効率的である	必要予算は極めて少なく効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	ホームページや美術館ニュースレター、広報、情報誌掲載等を行なっている。	A:実現している	休館日以外はほぼ全て観覧できる日程としている。	B:実現に向けて取り組んでいる	市史編さん業務による成果として新たな資料提供者からの協力、新資料の展示を行っている。		
所管による評価とその理由、課題・問題点								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	年間入館者の数値目標を上回っており、学校の見学対応や出前講座等を活発に行なっている。会場内のテーマ展においては、年に四回行い、市史編さん事業による成果等を展示した。また2階市民ギャラリーの使用に空きが生じた時期には郷土の昔の写真展示を行っている。しかし、常設展示については、10年来内容に変化がないため、もう少し充実させたものにしたい。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	学校の見学対応や出前講座等を積極的に行っており、歴史文化に触れることにより文化財に対する理解を深めるという目的はある程度達成されたと認められる。定期的な展示内容の見直し等を行い、入館者数の増加に努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定 (開催回数)				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	平成29年度からの展示を含め3回のテーマ展と新常設展1回を行う。郷土資料室内にある昭和の小部屋のコーナーについては、随時展示物の入れ替えを行う。学校からの見学に対する解説対応、小中学校等への出前講座を引続き行う。				入館者数年間35,000人の入館者数を目標数値とする。			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
常設展示の他、テーマ展、昭和の小部屋コーナー展示等の開催により、より広く文化財の保護保存の啓蒙に努めるとともに、市史編さん事業で得られた資料等を展示に活用していく。				常設展示やテーマ展の内容を充実させるため、定期的に展示替えを行う。昭和の小部屋の展示物を随時入れ替え。例年同様に学校からの見学依頼、出前講座の依頼があった場合は、積極的に対応する。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	06	03	02
市史編纂事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	05	05	07
市史編纂事業			

実施計画整理番号	
106030201	
総合戦略整理番号	32103

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	昭和30年に本納町史が、昭和41年に茂原市史が刊行されて以来、市史の発行は無い。市制70周年を目前に市史刊行を行い、市民に茂原市の歴史の変遷を明らかにしてゆくとともに、郷土愛を育み、後世に市の歴史を継承する。	市史編纂委員会の会議に基き、出張を伴った、市内外にある茂原市に関する資料等の所在調査、目録作成を行う他、市史の原稿執筆を依頼するなど本格的な活動を行う。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
基礎調査、目録等作成をさらに進める。 市史編さん委員会で市史の構成について協議検討する。 原稿作成のための資料調査を進める。 ホームページに市史編さん事業を掲載 記念イベントの計画作り	市史編さん講演会の平成30年開催を決定。 古文書調査を継続し、併せて関係機関所有の資料調査を実施する。 市史編さん委員会を組織・開催し、具体的な資料調査。 基本方針や市史の構成について協議を進める。 ホームページ掲載の準備を整える	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	0	0	2,609	0	0	4,752	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	0	0	2,609	0	0	4,752	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	市史編さん委員、調査員による資料調査	1,307	1,319	1,293	調査員3名による古文書の調査ならびに同調査で収集した文書等の整理、目録作成、解読作業の実施。編さん委員による市内の石造物の調査や鷲山寺、行徳寺等の資料調査、合併資料等の調査を実施した。年度末に、2冊の調査報告書を刊行した。
②	市史編さん委員会の設置・開催	290	290	225	市史編さん委員会を設置し、委員7名を選任。全5回開催。調査経過報告や市史の構成、市史の基本方針等を協議した。
③	調査報告書の刊行	603	59	590	『茂原市史調査報告書』第1集、第2集 各300部刊行。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,200	2,200	2,108	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

茂原市史編さん委員会条例に基づき、市史編さん委員会を設置した。考古・歴史・民俗の専門家7名を委員に委嘱した。市史編さん委員会を全5回開催し、調査経過報告や市史の構成、市史の基本方針等を協議した。調査員による古文書の調査、同調査により収集した史料の整理、目録作成、解読作業の実施。編さん委員による市内の石造物の調査や鷲山寺、行徳寺等の寺院の資料調査を実施した。年度末に、2冊の調査報告書を刊行した。(『茂原市史調査報告書第1集 茂原市下太田篠崎家文書調査報告書一代表的史料と目録一』『茂原市史調査報告書第2集 茂原市石造物調査報告書』各300部刊行)

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030201
1	06	03	02	市史編纂事業	9	05	05	07	市史編纂事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況
市史編さん委員会全5回開催 広報、ホームページ、美術館ニュースレターでのPRを実施	『茂原市史調査報告書第1集 茂原市下太田篠崎家文書調査報告書—代表的史料と目録—』300部刊行。 『茂原市史調査報告書第2集 茂原市石造物調査報告書』300部刊行

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	市史の発行は公共性という性格を持つものであり、またその製作過程において、より専門的知識が求められる。自治体が関与していくべき事業である。	A:有効である	昭和30年に『本納町史』が、昭和38年に『豊岡村誌』、昭和41年に『茂原市史』が発行されてより半世紀以上経過し、新たな資料も多く発見されている。旧市史の内容全体を見直さなければならなくなっている。	A:効率的である	古文書調査員3名、市史編さん委員会委員7名は、経験豊富で専門性も高い。民間委託に比し安価で効率的である。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	古文書等の歴史資料の提供を広報や美術館のニュースレター、ホームページに掲載して市民に協力をお願いしている。	B:実現に向けて取り組んでいる	所有者から資料の寄附、借用、新たな情報の提供という形で協力してもらっている。編さん作業の進行により、具体的な資料提供の呼びかけが必要となる。	C:実現の余地がない	専門的知識を必要とするため協働には適さない。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	広報やホームページ等での呼びかけにより、古文書等の歴史資料の収集や、市史の編さん上基礎となる資料の目録化が進み、年度末に2冊の調査報告書を刊行した。引き続き継続して作業を進めていく。また市史編さん委員会が平成29年度に設置され、7名の専門家を委員に委嘱し、市史の構成や基本方針等を協議するとともに、編さん委員による調査も実施した。今年度は市内の寺院・神社を中心に行なった。民間企業で刊行された社史等の資料の収集も実施した。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	市史編さん委員会が予定通り設置され、また資料の収集と調査報告書の刊行も進んだことから、成果があったものと認められる。今後は進捗状況をウェブページ等に随時掲載することで、事業のPRと啓発に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
市史編さん委員会の開催と基本方針策定、刊行計画の協議 基礎資料調査の実施と収集およびその成果物の刊行 市史編さん関連事業(講演会、調査協力依頼等)を行い、市民への啓発に努める 市史編さん事業専用ウェブページでの随時更新	市史編さん委員会の開催数 資料調査の回数 収集した資料数 刊行した『茂原市史調査報告書』の冊数 関連事業への参加者数

30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール
市史編さん委員会の開催と基本方針の策定、市史の刊行計画・構成の協議、調査執筆員の選定。 石碑や墓碑のフィールド調査や民俗調査の次年度への準備。 寺社資料や地質ボーリング資料、考古資料の調査や見直し。 『茂原市史調査報告書』の刊行や、郷土資料館の展示事業と連携による市史編さん講演会を開催し、市民への啓発に努める。 市内連合自治会総会において市史編さんの調査協力を依頼する。	年5回、市史編さん委員会を開催し協議を進める。 年間を通し、石碑や墓碑、考古資料の調査、寺社の悉皆調査、歴史資料の所蔵情報提供を呼びかける。 市内連合自治会総会にて調査協力依頼をする。(4月) 郷土資料館展示「明治の茂原に会いに行く」実施(6~11月) 市史編さん委員による「明治の茂原に会いに行く」講演会を開催(8月) 次年度以降の調査予定と費用を検討。 『茂原市史調査報告書』を刊行。(年度末)

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	01	青少年健全育成事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	04	青少年健全育成事業

実施計画整理番号	
107010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要		
P L A N (計 画)	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 青少年の健全育成を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 関係団体を助成するとともに、青少年健全育成事業を実施する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。	・青少年の健全育成の推進を図るため、関係団体に補助金を交付、活動を支援。①青少年相談員連絡協議会 947千円 ②青少年育成茂原市民会議 986千円 ③青少年少女発明クラブ 57千円 ④茂原市子どもセンター 261千円 ・青少年問題協議会の開催(1回)

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,399	2,399	2,399	2,399	0	0	2,399	0	0	2,399	0	0
財 源 内 訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	400	400	400	400	0	0	400	0	0	400	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,999	1,999	1,999	1,999	0	0	1,999	0	0	1,999	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	青少年相談員の活動支援	1,006	1,006	1,006	青少年相談員連絡協議会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
②	スポーツ大会の開催	53	53	53	青少年相談員連絡協議会と共催でつつじマラソン大会を開催した。今後も継続して実施する。
③	青少年育成茂原市民会議・青少年問題協議会の開催	1,022	1,022	1,022	青少年育成茂原市民会議に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。青少年問題協議会を開催、青少年に関する事項を協議した。今後も継続する。
④	茂原少年少女発明クラブの活動支援	57	57	57	茂原少年少女発明クラブに補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑤	子どもセンターの運営支援	261	261	261	茂原市子どもセンター協議会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,399	2,399	2,399	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・青少年の健全育成を図るため、関係団体に補助金を交付し活動を支援した。 ①青少年相談員連絡協議会 947千円 (つつじマラソン大会、ふぁみりーグラウンドゴルフ、パトロール等) ②青少年育成茂原市民会議 986千円 (少年の主張大会、ジャンピング大会、標語コンクール、講演会等) ③茂原少年少女発明クラブ 57千円 ④茂原市子どもセンター協議会 261千円 ・青少年問題協議会を開催 (1回)	

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010101
1	07	01	01	青少年健全育成事業	9	05	01	04	青少年健全育成事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 4件 ・青少年問題協議会の開催回数 1回 				<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 4団体 ・事業の参加者数 ・つつじマラソン大会797人、主張大会292人、ジャンピング大会579人 ・青少年問題協議会の参加者数 17人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	青少年の健全育成を図るためには関係団体の活動が不可欠であることから、支援は妥当である。	A:有効である	青少年育成事業の充実、環境浄化、非行防止等、各団体の目的達成のために補助金が有効活用されている。	A:効率的である	団体の運営資金の一部を補助しており、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市のウェブページや広報、各団体の広報紙により活動等を公表している。	A:実現している	各団体の意見を反映している。	A:実現している	青少年相談員連絡協議会と共催でつつじマラソン大会を開催している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	青少年健全育成で成果を挙げるためには長期的な活動が必要であることから、関係団体の活動支援や団体との共同事業の実施は今後も継続していく必要がある。また、事業の効果を高めるため、PRを強化する必要がある。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれも青少年の健全育成に資する取り組みとして、一定の成果があったと認められる。今後も引き続き関係機関・団体と連携し、情報提供の充実を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 ・青少年問題協議会の開催回数 				<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 ・事業の参加者数 ・青少年問題協議会の参加者数 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体への補助金交付 ① 青少年相談員連絡協議会 947千円 ② 青少年育成茂原市民会議 986千円 ③ 少年少女発明クラブ 57千円 ④ 茂原市子どもセンター 261千円 ・青少年問題協議会の開催 (1回) 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業

実施計画整理番号	
107010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	幼児・児童を持つ保護者を対象に学級・講座を開催し、幼児・児童の健やかな成長を推進する。	就学前の保護者を対象に「就学时子育て講座」、3歳児の保護者を対象に「幼児期家庭教育学級」、幼稚園児・小学生の保護者を対象に「家庭教育学級」を開催する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
・参加者の増加を図る。	①幼児期家庭教育学級 実施予定回数5回 ②家庭教育学級 実施予定回数60回 ③就学児子育て講座 実施予定回数14回	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	614	614	500	614	0	0	614	0	0	614	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	614	614	500	614	0	0	614	0	0	614	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	幼児期家庭教育学級の開催	141	141	87	3歳児を第1子に持つ親及び養育者を対象に、親としての学習の機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
②	家庭教育学級の開催	333	333	293	幼稚園4校、小学校14校の保護者に、家庭での子の教育等の学習機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
③	就学时子育て講座の開催	140	140	120	就学前の子どもを持つ保護者を対象に、子育てについての学習の機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		614	614	500	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)				
①幼児期家庭教育学級	実施回数	5回	／	延べ参加人数 41人
②家庭教育学級	実施回数	67回	／	延べ参加人数 2,416人
③就学児子育て講座	実施回数	14回	／	延べ参加人数 633人

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010201
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業	9	05	01	03	家庭教育学級開催事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・開催回数 ①幼児期家庭教育学級 5回 ②家庭教育学級 67回 ③就学児子育て講座 14回				・参加人数 ①幼児期家庭教育学級 41人 ②家庭教育学級 2,416人 ③就学児子育て講座 633人			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	社会教育法で市町村教育委員会事務の一つに位置付けられている。また、総合計画とも整合する物であり、妥当である。	A:有効である	受講後のアンケートでは概ね良好な評価が得られており、有効である。	A:効率的である	必要最低限のコストで実施しており、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	各学級、講座の対象者に情報を提供している。	A:実現している	アンケートにより受講者の意見を吸い上げている。	A:実現している	PTA等と協力して実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	子どもの発達段階に応じた学級を開催し、ニーズに対応した。事後の評価も概ね良好であり、十分な成果を挙げている。子どもの健全な成長にとって家庭教育が果たす役割は非常に重要であり、本事業は行政の取り組みとして優先度は高いと考える。このことから、今後も事業内容を縮小することなく継続して提供していくことが望ましい。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの講座も開催回数は目標を超えており、一定の成果を挙げたと認められるが、参加者数が前年度より減少している。より一層の参加が得られるよう、内容や周知方法について検討するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・開催回数				・参加人数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
参加者の増加を図る。				①幼児期家庭教育学級 実施予定回数 5回 ②家庭教育学級 実施予定回数 64回 ③就学児子育て講座 実施予定回数 14回				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業

実施計画整理番号	
107010202	
総合戦略整理番号	22304

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	夏休み期間中の子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢交流、地域教育力の活性化を目的に夏休み子ども教室を開催する。また、放課後子どもプラン運営委員会において事業の検証を行い、開催校を順次増やすことで推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み子ども教室の開催校を増やす 放課後子どもプラン運営委員会の開催(年2回) コーディネーターの育成のため各種研修会に参加する
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
平成28年度と同様に5小学校で開催する。また、平成30年度に開催校を1校増やす予定であるため、29年度中に開催校を決定し、コーディネーターを確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 豊田っ子クラブ 期間:7/24~7/28 平日5日間 緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/4 平日5日間 中の島っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 茂原っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 鶴枝っ子クラブ 期間:8/2~8/4 平日3日間 	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	377	377	301	472	0	0	472	0	0	472	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	200	313	0	0	313	0	0	313	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	127	127	101	159	0	0	159	0	0	159	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	放課後子どもプラン運営委員会の開催	88	88	80	事業実施前後に1回ずつ、年2回実施。事業の検討と検証を行った。
②	夏休み子ども教室の運営	289	289	221	豊田小学校、緑ヶ丘小学校、中の島小学校、茂原小学校、鶴枝小学校の5校で実施した。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		377	377	301	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> 豊田っ子クラブ 期間:7/24~7/28 平日5日間 会場:豊田小学校 申込児童数:52名 緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/4 平日5日間 会場:緑ヶ丘小学校 申込児童数:43名 鶴枝っ子クラブ 期間:8/2~8/4 平日3日間 会場:鶴枝小学校 申込児童数:86名 中の島っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 会場:中の島小学校 申込児童数:36名 茂原っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 会場:茂原小学校 申込児童数:35名 	

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010202
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業	9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・豊田っ子クラブ 期間:7/24~7/28 平日5日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/4 平日5日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/2~8/4 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間				・豊田っ子クラブ 延参加児童数:229名 (1日平均45.8名) ・緑ヶ丘っ子クラブ 延参加児童数:156名 (1日平均31.2名) ・鶴枝っ子クラブ 延参加児童数:213名 (1日平均71.0名) ・中の島っ子クラブ 延参加児童数:134名 (1日平均26.8名) ・茂原っ子クラブ 延参加児童数:132名 (1日平均26.4名)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	国の推進する放課後子どもプランによる事業であり、妥当である。	A:有効である	事業の意図する子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢交流は達成されており、有効である。	A:効率的である	費用は運営委員の報酬、コーディネーターの謝礼及び最低限の消耗品費のみであり、削減の余地は無い。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報等	A:実現している	事業の検証等を行う放課後子どもプラン運営委員会に市民が参加している。	A:実現している	コーディネーター、ボランティアとして地域住民が運営に参画している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教室の運営は地元出身のコーディネーターや長寿会・高校生などのボランティアによって適正に行われ、事業目的である子どもの安心・安全な居場所づくりと異年齢交流は概ね達成できた。参加児童及び保護者からも好評を得ている。今後の課題としては、開催校の拡充と、それに伴う新規コーディネーターの発見及び育成がある。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	夏休み子ども教室については、多くの児童が利用していることから一定の成果があったものと認められる。今後も開催校を拡充して、より多くの児童が利用できるように支援の充実を図るものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・夏休み子ども教室の開催数				・参加児童数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
平成29年度から1校増やした6校で開催する。				・豊田っ子クラブ 期間:7/25~7/27 平日3日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/2 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/6~8/8 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/8~8/10 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間:8/20~8/22 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/27~8/29 平日3日間				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	07	01	03
青少年相談指導事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	05	04	01
環境浄化と非行防止事業			

実施計画整理番号	
107010301	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(「だれ・何」を【どのような状態】にするか) 茂原市青少年補導員連絡協議会と連携し、街頭補導・相談活動・環境浄化活動・啓発活動を推進し、青少年の健全育成に努める。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 「夜間の街頭補導」を充実する。 「列車補導」「茂原七夕まつり」「県下一斉パトロール」等の啓発補導を充実する。 他支部との連携や研修会へ補導員とともに積極的に参加する。 相談体制を整え相談活動をより充実する。 ネットパトロールを充実する。 登下校時のパトロールを充実する。
平成29年度の具体的な目標 青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。	平成29年度スケジュール ①街頭補導活動→夜間補導(6月～3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(7月)、列車補導(10～11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,295	1,300	1,229	1,257	0	0	1,257	0	0	1,257	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	250	250	0	0	250	0	0	250	0
	市債	千円	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,045	1,050	979	1,007	0	0	1,007	0	0	1,007	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	街頭補導活動の実施	878	878	875	619回の街頭補導を実施し、487人(前年比-4人)を補導した。今後も非行防止、早期発見のため関係機関と連携し、巡回を強化していく。
②	相談活動の実施	0	0	0	161件(前年比-44件)の相談を受理した。中・高生に関する情報提供が主である。今後もしおりの配布や広報誌くすを通して、相談窓口としての周知に努めていく。
③	環境浄化活動の実施	124	124	61	ネットパトロールを通して不適切な書き込み等を報告し、改善した。また携帯電話・スマートフォンの安心・安全な使用についてのリーフレットを配布し啓発に努めた。
④	非行防止の啓発	165	165	160	リーフレットや広報誌くすの中で、非行防止について訴えたり、家族に向けての子育てアドバイスを載せたりした。今後も紙面の充実を図り、啓発を強化していく。
⑤	子どもの安全を守る活動の実施	128	133	133	登校時(週3)・下校時(週5)の巡回をし、通学路の安全確保を行った。また、不審者の発生した場所を巡回することで、抑止に努め、地域の安全安心を守る活動を行った。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,295	1,300	1,229	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ①街頭補導活動(夜間補導55回、列車補導3回、七夕まつり補導3回、啓発補導2回)
- ②安心・安全な使用のためのリーフレット「ケータイ&スマホは正しく安全に使いましょう」の配布(5月) 悩み・相談用しおりの配布(10月)

PLAN (計画)

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010301
1	07	01	03	青少年相談指導事業	9	05	04	01	環境浄化と非行防止事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導、県下一斉パトロール、列車補導等、年間63回実施。 ・千葉ブロック研修会(2回)、中学校区研修会(1回)、その他の研修会参加により、識見を高め、青少年健全育成に取り組んだ。 ・不審者発生状況の把握 				<ul style="list-style-type: none"> ・補導状況(487人補導、主な行為:い集行為・道路交通法違反) ・青少年補導員(補導・研修会)参加率66% ・相談状況(相談件数161件、関係機関からの情報提供が主) ・不審者発生状況(市内27件・近隣市町村19件)の情報提供 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	青少年健全育成を目指した街頭補導事業は、公的な関係機関及び市民との連携が必要である。その推進役として自治体が関与すべき事業である。	A:有効である	日々の地道な補導活動や関係機関との情報共有等は、青少年の健全育成・非行防止に役立っている。	B:やや効率的である		28年度より報酬額の増額となったが、補導員の活動実績を考慮すると他市と同程度程度の報酬額を支給すべきである。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報紙「くす」により補導・相談状況及び不審者情報を掲載し市民に提供している。また、不審者情報はホームページで公表している。	A:実現している	指導センター運営協議会を年2回開催し、10名の委員から事業に対する助言をいただいている。	A:実現している		補導員とセンター職員合同で街頭補導活動を行っている。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	学校や関係機関と情報の共有化を図り、情報を活用した街頭補導活動を実施することができ、非行防止・早期発見につながった。また、リーフレットの配布や広報紙「くす」等で啓発したことにより、小中学校は落ち着きを取り戻している。高校退学者や高校進学をせず就職を選んだ少年の動向を正確につかむことができていない。補導活動の中で人間関係をつくり、会話の中で進むべき道を示してやる必要がある。SNSを利用した交友関係が広域化している。市内だけでなく近隣市町村との情報交換が必要になってくる。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	青少年の健全育成に資する取り組みを実施しており、一定の成果を挙げていると認められる。引き続き街頭補導活動を実施するとともに、インターネット上のトラブルなど、様々な事案に対応できるよう近隣団体や関係機関と連携を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

A C T (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導、県下一斉パトロール、列車補導等、年間64回実施。 ・千葉ブロック研修会、中学校区研修会(1回)、市補導研修視察(1回) その他の研修会への参加 ・ネットパトロール ・不審者発生状況の把握 				<ul style="list-style-type: none"> ・補導状況(人数、内容) ・青少年補導員(補導・研修会)参加率 ・相談状況(人数、内容) ・ネットパトロール実施状況(回数、人数) ・不審者発生状況の情報提供 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。				①街頭補導活動→夜間補導(6月~3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(7月)、列車補導(10~11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	08	01	01	国際化推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	02	国際化推進事業

実施計画整理番号	
108010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>多くの市民が異文化に触れ、交流に参加できる機会を創出するとともに、姉妹都市交流などの国際交流活動を通じて市民の国際感覚や意識づくりに努める。また、在住外国人と、お互いの価値観や文化を尊重しながら暮らすことのできる多文化共生社会づくりを国際交流協会との協働により推進する。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市交流を推進し、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・国際交流協会と連携しながら、市民の国際意識の高揚を図るとともに、多文化共生社会の実現を目指す。
<p>平成29年度の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市訪問団の受け入れを通じ、様々な分野での国際交流を図る。 ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。 	<p>平成29年度スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・在住外国人が安心して暮らせる地域を目指し、在住外国人を支援する事業を検討する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	385	1,455	1,122	1,797	0	0	661	0	0	3,700	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	284	1,355	1,022	1,697	0	0	561	0	0	2,641	0	0
	一般財源	千円	101	100	100	100	0	0	100	0	0	1,059	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	姉妹都市訪問団の受け入れ	0	0	0	受け入れなし。次回受け入れはH30Iに実施。今後も4年ごとに受け入れを実施。
②	姉妹都市への訪問団派遣	0	0	0	派遣なし。次回派遣はH32Iに実施。今後も4年ごとに派遣を実施。
③	姉妹都市学生等受け入れ	233	233	2	エンデバー校の生徒21名を受入れ。今後も教育交流を継続する。
④	茂原市国際交流協会等の活動推進	100	100	100	協会事業を拡充し、会員数も増加した。今後も活動が充実するよう支援し、活動拡大を目指す。
⑤	国際交流基金の積立	52	1,122	1,020	定期預金利子及び基金への寄附17件。今後も継続する。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		385	1,455	1,122	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・茂原市国際交流協会は、七夕まつりに参加しPRIに努めるとともに、外国語教室、国際交流パーティー、国際交流バスツアー等の国際交流事業を実施し、市民が国際交流に参加できる機会の創出及び異文化間の相互理解、国際意識の醸成を図った。
- ・国際交流協会事業として、在住外国人のための安全安心教室及び在住外国人支援のための研修の機会を創り、多文化共生社会の実現を目指した。

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	108010101
1	08	01	01	国際化推進事業	2	01	09	02	国際化推進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会会員の加入促進: 31名の新規会員が加入し、会員数が86名となった。 ・国際交流協会主催事業の実施回数: 14回 (PR事業2回、日本語学習支援事業2回、国際交流事業6回、外国語教室4教室) 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加機会の創出回数: 14回 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数: 個人会員31名増 				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A: 妥当である 国際交流の実施により国際意識の醸成や異文化理解が進み、多様性を認める社会の構築に貢献している。			B: やや有効である 国際交流活動に参加している市民は一部に限定されており、在住外国人への支援も十分とは言えない。			A: 効率的である 国際交流事業に必要な様々なスキルやノウハウを持つ個人や団体を有する国際交流協会との連携により、行政だけでは成し得ない事業を効率的に実施できている。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A: 実現している 市ホームページ、協会ホームページ、Facebook、自治会回覧や市広報誌などを利用し、PRに努めている。			A: 実現している 国際交流協会の会議には在住外国人を含む市民が参加し、企画から共に取り組んでおり、市民意見を積極的に取り入れて事業を実施している。			A: 実現している 国際交流協会の活動は、在住外国人を含む市民との協働が実現できている。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			・国際交流協会の会員数は増加しており、事業も年々充実してきている。また、国際交流協会と協働で国際交流事業を実施することにより、市民が国際交流事業に参加する機会を創出できている。 ・在住外国人が安心・安全に暮らせる取り組みは十分とは言えないものの、年々充実してきている。						
	企画政策課での評価とその理由									
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			国際交流協会の会員数の増加により、市民の国際理解及び国際化意識の醸成が図れたことにより、当初の目標は概ね達成できたと認められる。引き続き、在住外国人に対しても、安心・安全に暮らせるよう支援事業を充実させるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市訪問団の受け入れ回数及び人数 ・姉妹都市ソルズベリー市に関する情報提供回数 ・国際交流協会会員の加入人数 ・国際交流協会主催事業の実施回数 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加機会の創出回数 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数 				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市訪問団の受け入れを通じ、様々な分野での国際交流を図る。 ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。 					<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市訪問団を受け入れる。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。 					